

# 芸 能

SF界の巨匠・小松左京さん(1931〜2011年)の古希を記念して創刊した同人誌『小松左京マガジン』(発行・イオ、千円)が、9月28日発売の第50巻を最後に終刊する。発行人で元秘書の乙部順子さんは「キリのいいところで大団円にしよう」と決めました。今年是小松さんの三回忌でもあり、宇宙からよく頑張ったなあと言ってくれと思う」と話している。

(平松澄子)

『小松左京マガジン』の創刊は平成13年1月。阪神大震災のあと、うつ状態になっていた小松さんを元気づけるためだったという。「70歳になるから、好きなことだけをやってはと勧めたら、学生時代のような同人誌をやりたいって言ったんです」と乙部さん。

友人関係に呼びかけて、落語家の桂米朝さん、民族学者の石毛直道さん、漫画家の萩尾望都さんら7人が同人となり、維持会員らを集めて、1千部限定の年4回発行でスタート。編集長の小松さんがインタビュアーとなった編集長対談をメインに、さまざまな研究論文やエッセイ、投稿など毎号、多彩な内容を掲載した。

## 小松左京マガジン 50巻にて大団円



「表紙は1年目は字だけ。2年目から小松さんのイラストになりました」と話す乙部順子さん

★ 編集長インタビュは第29巻まで続き、小松さんが80歳で亡くなるまでに第42巻を発行した。「危篤の枕元に、前日にできあがったばかりの第42巻を持って行ったのが、最後でした。そうか、とうなずいてくれました」と乙部さん。次の第43巻は追悼号。昨年は1周年忌のイベントもあって発行を続けてきた。

★ 最後となる第50巻の目玉企画は座談会。大阪で石毛さん、狂言師の茂山あきらさん、漫才作家の小佐田定雄さんらと「小松左京と上方風流」をテーマに。東京では漫画家の萩尾さんやとり・みきさん、作家の山田正紀さんらで「小松左京の未来」をテーマに行った。「小松さんのD

NAを未来に引き継いでもらいたいという趣旨で、東京はSFチックに、大阪は文化的なもので話し合ってもらいました」と乙部さん。

★ ほかにも、作家のかんべむさしさんのコラム、作家の森下一仁さんらの評論、会員からのメッセージなどを掲載する。表紙は1〜49巻すべての表紙を裏表でレイアウトするそうだ。

★ 乙部さんは「小松さんの道楽に賛同して一緒に楽しんでくれる会員が増え、おもしろい展開になって10年以上続きました。このマガジンは、小松左京研究」だけじゃなく、文学史としても貴重な資料になって、存在意義はあったと思う。改めて、小松さんは興行きも幅も広い世界を持って表現してきた人だと思えます」と振り返った。

発行人・乙部さん「文学史としても意義」